研究紀要 2010年 創刊号 pp.17～36

小１Ｓ児、夏休みの言葉
── ラジオ体操をめぐる言葉（１）

桒原　昭徳

What Kind of Words Did Child S Use ?
── The Words about Radio Exercises (l)

Akinori KUWAHARA

言語習得が遅れている小学１年Ｓ児と祖父の筆者は、2009 年夏休みに計 42 回の「朝のラジオ体操」に取り組んだ。この取り組みに至るまでには、①前年の幼稚園年長時の夏休みのラジオ体操、②小学校入学以来の自主的な「朝起き」、③直前の「ミニ･ラジオ体操」などの事前の準備があった。

論文（1）では、夏のラジオ体操に取り組むまでの事前準備、夏休み始めのラジオ体操の実態、ラジオ体操にかかわるＳ児の言葉の実態を明らかにする。

Keywords：ラジオ体操、言葉の遅れ、小学１年生、夏休み

１．はじめに

１）本論の目的

Ｓ児は、３歳児健診時に「言葉の遅れ」を指摘されて、施設への入所を強く促された男児で、筆者の孫の一人である。幼稚園年少クラスに入園する直前の３月下旬に、私たち祖父母と同居しはじめた。「言葉の遅れ」をとりもどすためには、Ｓ児の周囲の人の数が多くて「言葉の数」が多い環境が良い結果を生むにちがいないとの切なる願いからである。3 年間の幼稚園生活ののち、Ｓ児は 2009 年 4 月から公立小学校へ入学し、情緒クラスに所属することになった。

前年の 2008 年度、幼稚園年長組の夏休みには、祖父である筆者（以下、Ｋと表示する）とともにＳ児は、ほぼ 40 日の間、毎日のように「朝のラジオ体操」にとりくんだ。次の年の 2009 年度、小１夏休みのラジオ体操には、この体験が生かされることになった。結果的には、夏休みの 45 日のうち、42 回の「朝のラジオ体操」にとりくんだのであった。

本論では、第１に、Ｓ児の言葉の発達に大きく寄与することになった 2009 年度、小１の夏のラジオ体操に関する様々な活動のうち、主要にはＳ児の「ラジオ体操に関する言葉」の実態を明らかにする。

第２には、夏のラジオ体操への取り組みが可能となった生活の実態を明らかにして、言葉の発達のためには、どのような前提が必要であるか、さらに言葉をスムーズに生み出す指導方法について考察を加える。

第３は、幼稚園から小学校にいたる連携指導の在り方を、ラジオ体操への取り組みという視点から明らかにするとともに、そのさいに家庭において可能な言葉の教育の方法を考察する。

なお、考察については、紙面の都合上、「考察■･･･」のような形で、適宜、論文の途中に加える。

2）S児のこと

2006年3月下旬、S児一家は、山口市の桒原宅にやってきた。その次の日には、入園させていただく幼稚園に出かけることにした。

S幼稚園の園庭に入ると、S児は滑り台を目がけて走り、階段を上っては下る「滑り台遊び」に興じた。幼稚園の先生方にもS児の遊ぶ様子や話し言葉の様子も見ていただくことになった。

その日から2週間後、S児は、山口市立S幼稚園の入園式に臨んだ。その2週間のあいだにも、数度、春休みの幼稚園に出かけては園庭で遊ぶことにした。S児は、年少クラスに入り、全園で15～16人程度の小規模の幼稚園で過ごした。

2009年4月に山口市立Y小学校に入学した。10月3日には満7歳の誕生日をむかえた。小学校入学以来、朝の会・給食・そうじ・終わりの会などの時間は情緒学級で過ごしているが、国語・算数・生活などの教科の時間には、1年生の普通学級の教室において、情緒クラス担当の先生の付き添いを得ながら、30名の児童と一緒に学習に取り組んでいる。

拙宅への同居以来、家庭ではS児と母親、私たち祖父母の計4人が、S児の起床から就寝に至るまで、S児の生活を中心としながら暮らしている。月に1，2回程度、父親もやってきて、S児の遊びの相手をしてくれることがある。

2．夏休みラジオ体操への誘い

1）ミニラジオ体操

2009年のY小学校の夏休みは7月18日（土曜日）から始まる。その夏休み第1日目に、第1回目の「夏休みのラジオ体操」を行なった。

その日までに、「夏休みのラジオ体操」に関しては、大きく次の二つの事前準備をすることになった。

一つは、7月初旬に入ってからの朝食や夕食の前後に、KからS児に対して「夏休みになったら、ラジオ体操、する？」という誘いの言葉をかけたことである。この誘いの問いかけに対して、S児は即座に「うん」とか、「する！」という応答をした。その直後に、「ちょっと、やってみようか」と誘って、ラジオ体操第1の最初の2つの運動だけをした。名付けるとすれば、「ミニラジオ体操」である。

もう一つは、夏休み1週間前の土曜と日曜の朝の、本番さながらの「ラジオ体操の練習」である。

7月に入って、S児とKの間で、つぎのような会話をすることが数度あった。

夕食のあと、K「夏休みになったら、ラジオ体操する？」と問いかける。

S児が「うん」と応答する。

K「ちょっとやってみようか」、S児「うん」。

居間で、Ｓ児とＫの二人で向き合って立つ。すこし真面目な顔をする。

Ｋ「きをつけ、れい」。両手を体側にくっつけ、両足をそろえて立ち、たがいに頭を下げて、始めのあいさつをする。

そして、いきなりＫが「１、２」と合図をして、両手を肩の幅で上にあげ左右に広げる。つぎに「３、４」と言いながら、その両手を左右の体側に下ろす。さらに、「５、６、７、８」のリズムに合わせて、この運動の２回目をくりかえす。これが、ラジオ体操の最初の「のびの運動」である。

ラジオ体操の２番目の運動は、左右の「腕を振って足を曲げ伸ばす」運動である。両手を前で交叉させて横に上げながら、足を屈伸させる。これも、1から8までのリズムで終わることになる。この二つの運動をすませたら、「ラジオ体操」の真似事遊びは、もう終わりである。およそ10秒ばかりかかる。それが「ミニラジオ体操」の内実なのである。

この直後に、Ｋは神妙な顔をして「これで、ラジオ体操を終わります」といったあと、もういちど改まった姿勢と顔をして、「きをつけ、れい」をするだけで終わる。

この「ミニラジオ体操」は、始めの礼から終りの礼までを入れても、20秒ばかりで終わるので、いつ取り組んでも、Ｓ児は喜んで相手をしてくれた。この「ミニラジオ体操」を、７月初旬の間に５回前後繰り返しているのである。

考察■幼児・小１児童は簡単な身体活動とその反復を喜ぶ

Ｓ児は前年の夏休みにも、およそ40回のラジオ体操にとりくんだ体験を持っている。だから、７月に入って夏休みのことが話題になると、夕食のあとなどに、急にＫが「夏休みになったら、ラジオ体操する？」と問いかけたとしても、違和感はない。即座に、笑顔とともに「うん」とか、「はい！」のように対応してくれたのである。

子どもたちが食指を動かし、その気になってくれる活動とは、それまでの体験をもとにして、ほんの少し難しさが加わったレベルの活動である。既知・既習のラジオ体操の動きの上に、①急にＫが話題にしはじめる、②実際の動きを始める、③あらたまった「気をつけ、礼」などのあいさつの言葉と動きも加わっている。これら①②③の未知・未習の活動が仕組まれているので、そこに対応できた嬉しさや、これから始まる夏のラジオ体操の楽しさのイメージも生まれてくるのである。

夏休みの最初の日の「朝６時30分」から、突如としてラジオ体操にとりくむのではなくて、いくつかの事前準備がなされているのである。その導入にあたるのが、上記の「ミニラジオ体操」である。

2009年度の夏休みの「ラジオ体操」も、６時すぎには起床して、顔を洗い、身支度をして、首に体操カードをぶら下げ、歩いてラジオ体操の会場へ出かけたり、自宅玄関前でラジオ体操をしたりなど、前年夏の体験が生かされているのである。

２）本番さながらの練習

夏休み１週間前の2009年７月11日（土曜）の朝には、本番さながらの「ラジオ体操の練習」

をすることになった。きっかけは、前日7月10日（金曜）の夕方の次のような出来事である。

その日、学校から帰ってきたＳ児は、いつものように「おやつ」を食べたあと、宿題にとりくんだ。宿題は、国語教科書の音読と引き算カードの練習である。そのあと、自分で日課表を見ながら翌日の学習の準備をして、ランドセルの中に入れ終わった。そのあとの、ゆっくりとした時間が流れていたときのことである。Ｓ児とＫの間で、つぎのような会話をすることになった。

Ｋ「あした、ラジオ体操を、やろう。ラジオ体操、する人？」
Ｓ児、大きな声で「はあい」と挙手する。
Ｋ「あした、ラジオ体操、しない人？」
Ｓ児「うう！」と言いながら、手を下にさげる。

Ｋ「（朝）起こしてくれる？」
Ｓ児「うん」
Ｋ「何時に、起こしてくれるんかなあ」
Ｓ児「6時に起こす」

Ｓ児が登校する日は「6時20分」に祖父（Ｋ）を起こすことになっているが、土曜や日曜、祝祭日、休日等には「6時」に起きることになっているのである。2009年の夏休みも朝のラジオ体操を続けるので、朝起きは「6時」である。

考察■「朝起き」も自主的な活動が可能である

大多数の子どもにとって（いや、多くの成人にとっても）、「朝起き」は、どうしても「受動的な活動」に陥りやすい。というのは、静的で無自覚的な睡眠から自主的に覚醒することは、だれにとっても困難が伴うからである。

2009年4月10日、入学式の翌日には、Ｓ児の「朝起き」について家族で話し合った。Ｓ児が、8時05分に余裕をもって小学校に到着するためには、どうしても7時35分には家を出るようにしなくてはならない。そのためには朝食の始まりは6時45分にする。このように母親と祖母が「Ｓ児の朝の生活」の流れを逆算してみると、登校する日の朝起きの時刻は「6時20分」が良いということになった。

その結果、右のような表ができあがって、居間の出入口の壁に掲示されることになった。

Ｓくんの「あさおき」
６：２０　おきる
◎おじいちゃんを　おこす
６：４５　あさごはん
７：３５　しゅっぱつ（4/10）

Ｓ児は、どちらかといえば、朝起きが得意な子どもである。右のように決めたあとも、すでに6時前には目をさましていて、足のかかとを布団に打ちつけてトントンと音をたてたり、デジタル時計が「6時20分」になるのを待っている様子である。

夏のラジオ体操が可能となった第1の前提条件としては、Ｓ児に入学以来の「朝起き」の習

慣が身に付いていたことを挙げなくてはならない。この朝起きに抵抗がなかったことが、夏のラジオ体操を活性化するための原動力となった。

夏休みの１週間前の７月 11 日（土曜）の朝には、つぎのような会話が交わされることになった。

５時 30 分、ドタドタと階段を降りる音がする。Ｓ児がトイレに行く様子である。そのあと、Ｓ児が「ねえねえ、おじいちゃん、お仕事、行った？」と、祖母にたずねる声が聞こえてくる。さらに、涙声の「お仕事、行った？」の声も。前日夜の約束が、強く記憶されている様子である。

６時 00 分に、Ｓ児がＫを起こす。身支度をしたあと、ラジオ体操の始まりの時刻、６時 30 分まで玄関前で待つのだが、この時間が長く感じられる。家の近くを散歩することに。

６時 30 分、ラジオ体操。第１体操だけをして、家の中に。Ｓ児・母親・祖母の３人は、朝食。Ｋはシャワー。身支度のあと、研究室へ。

翌７月 12 日（日曜）の朝も、前日同様の「夏休みのラジオ体操の練習」に取り組んだ。

３）夏休みをむかえるまでの生活

７月 14 日（火曜）朝のことである。５時 30 分、Ｓ児がトイレに行く。そのとき、Ｋの寝ている部屋をのぞいた。トイレのあと、Ｓ児が自分の部屋へいく。Ｓ児の足音を聞いて、Ｋ「おやすみ」と声をかける。

６時 00 分、Ｋ、起床。Ｓ児の部屋へ行き、「おじいちゃんは起きて、仕事に行くからね。Ｓ君は６時 20 分に起きて、学校に行ってね」。Ｓ児「うん」。

Ｋ「学校に行って、勉強、がんばる人？」

Ｓ児、小さな声で「はあい」と言いながら、小さく手をあげる。まだ、約束の６時 20 分になっていないので、小さな声で返事をしているのである。起床する時刻が、強く意識されている。

この日は、Ｓ児の「水泳」授業を参観することになった。

10 時 35 分、Ｋ夫婦（祖父母）、Ｙ小学校着。水泳の準備段階から参観。

１年の子どもたち、水泳着に着替えて、クラスごとに１列になって出てくる。

Ｓ児も、列に並んで出てくる。

プールに入る前の準備運動は、Ｆ先生のご指導である。先生が手足を動かしながら、「１、２、３、４」と声を出されると、そのあとは子どもたちがつづけて「５、６、７、８」と声に出しながら準備運動を進めるのである。

つぎに、水着を着た下半身を消毒するために、水のためられた場所に入る。そのときも、子どもたちは「１、２、３」と声を出し始めた。このときは、さらに「７、８、９、10」と 10 までつづいた。10 秒という時間を確保するための低学年の子どもに相応しい活動方法である。

さらに、頭の上からシャワーにかかって、全身を洗うことになる。このときも、子どもたちは「１、２、３」と声にだしはじめて、10 まで数えた。

考察■学校の水泳の準備体操とラジオ体操

幼稚園児や小学校低学年児童にとって、教師からの「10秒間、消毒プールにつかりなさい」という指示を実行することは難しい。しかしながら、消毒プールにつかりながら1から10までを声に出しながら活動すれば、その実行は容易となり、確実になる。

また、プール授業の準備運動のように、教師と子どもたちが交互に声を出しあう形も、子どもたちの準備運動への確実な参加を呼び起こす。

既述したように、「夏休みになったら、ラジオ体操、する？」という誘いの言葉を投げかけるだけではなくて、その言葉の直後に、その場で「1、2、3、4」と声に出しながらミニラジオ体操に取り組むことで、ラジオ体操への期待や実行への意欲も引き起こされてくるのである。

偶然にも小学校のプールで展開された指導方法と、家庭でのラジオ体操への誘いや意欲づけの方法のあいだの類似性と共通性を発見することになった。

S児の充実した1日

7月15日（水曜）帰宅後、いつものように「おやつ」をたべたあと、宿題プリント1枚にとりくんだ。

夕食後、S児が「音読、する！」というので、K「おじいちゃん、聞いてもいい？」とたずねてみる。するとS児からは「はい」という返事。

1学期末、夏休み直前のこの時期、起床から登校、学校での多様な活動、下校から就寝までの生活リズムも定着してきた。朝7時35分の登校から、15時半すぎの帰宅までの間が、およそ8時間である。そのあと家に帰ってからの宿題が、プリント1枚、音読、計算練習などの学習である。

この日の夕方には、長いお話の「大きなかぶ」の全部を、3回音読することになった。全部の音読が終了したあと、聞いていた母親・祖母・祖父の3人が、S児の頑張りに大きな拍手を送ることになった。

そのあと、S児は「けいさん！」といった。カードを1枚1枚めくりながらの「ひきざん」の練習である。手にカードをもったS児は、立って練習しはじめた。

計算練習が終わると、S児は、すぐに「じかんわり！　こくご、さんすう、こくご。こくごが、ふたつ！」といった。時間割の準備をして、ランドセルの中に入れると、今度は「さきに、はみがき！」という。このあと、シャワーも、あるようだ。テレビも見るとも言っている。18時49分のことであった。

1学期末の時点において、起床してから就寝まで、S児が小学校1年生にふさわしい充実した生活を送っていることが分かる。入園直前からの祖父母との同居の決意（祖母）、遠距離通園の送迎（母親）、身辺自立のための日々の生活の世話、入学後の生活と家庭学習の育成など、3年あまりの祖母と母親の意志と努力が、いちおう報われた形で夏休みを迎えることができたのである。

2009年度の1学期終業式は、7月17日（金曜）であった。その日の夕方には、S児が卒園した、市内のS幼稚園の終業式直後のイベント「ゆうべのつどい」に招かれていた。夜まで、楽しい催

しがあった。

夏休みは7月18日、土曜日からはじまった。地域子ども会の夏の行事としての「朝のラジオ体操会」は、7月中旬からはじまるのだが、S児とKの二人でおこなう夏休みのラジオ体操は、夏休み初日の7月18日から始めることにした。

夏休みの前日、7月17日夜にも、S児とKの二人が布団に入って、『お魚図鑑』を読むことになる。この図鑑は、S児が最初に繰り返して見ることになった。前日にも、この『お魚図鑑』をみた。

いつものように、Kがつぎつぎとページをめくって、S児が声に出して読む。

この日、S児が初めて指さす魚もあった。カラフルな魚である。

この図鑑をめぐる活動は、20時44分に終了した。翌朝6時の起床までには、約9時間の睡眠時間がある。

夏休みをむかえるまでの概要

2009年夏のラジオ体操の初日を迎えるまでの概要を、以下にまとめておこう。

7月上旬、ラジオ体操の最初の2つの運動だけの「ミニラジオ体操」約5回。

7月10日（金）　夕方、ラジオ体操の最初の二つの運動をして、
　　S児と「明日の朝、ラジオ体操の練習をしよう」と約束。

7月11日（土）　夏のラジオ体操の練習①。

7月12日（日）　夏のラジオ体操の練習②。

7月13日（月）

7月14日（火）　10:45 S児のプール遊びの参観(祖父母)。夜、「壱岐に行くとき、船に乗る人？」
　　「泳いで行く人？」の言葉遊び。

7月15日（水）　夕方、S児の勉強（家庭学習）の様子を見せてもらう。

7月16日（木）　午後、個人懇談会。

7月17日（金）　1学期終業式。夕方、出身幼稚園の終業式後のイベント参加。

3．2009夏のラジオ体操の概要

2009年度、S児の小学校1年生の夏休みは、7月18日（土曜）にはじまり、8月31日（月曜）に終わった。45日という長い夏休みであった。そのうちの42日に42回のラジオ体操にとりくんでいる。ラジオ体操をしなかったのは、体調をくずして、元気のなかった3日間だけである。

以下45日間の夏休みのラジオ体操への取り組みの概要を日付順に示す。

たとえば、夏休みの1日目には、つぎに下線で示すような記述がしてある。

「7月18日（土）夏休み第1日目。ラジオ体操01☆。「散髪しました。」」

上記の記述のうち、最初の「7月18日（土）」は月日と曜日を示す。つぎの「夏休み1日目」は、その日の行事や遊びなどの特記事項である。つづく「ラジオ体操01☆」の「01」は、2009年度

夏休みのラジオ体操の「回数」を示す。この日は、夏休みの最初のラジオ体操であるので「01」と記してある。ただし、回数の後ろの☆印は、家庭で取り組んだラジオ体操を示し、★印は、子ども会のラジオ体操を示す。

そのあとの「・・・」で示しているように、かぎの中の記述は、S児の夏休みの宿題の「一行日記」記述の内容である。S児の夏休みの生活の一端が分かればとの思いからである。S児の「一行日記」の文は、45日の夏休みの間、1日も欠かさずに書かれた。すべて平仮名で書かれているが、成人に読みやすいようにとの配慮から、文はそのままにして、カタカナや漢字に換えてある。

月　日（曜）　事　　項　　。体操の回数 , 別。「一行日記の記述」

7月18日（土）　夏休み第1日目。ラジオ体操01☆。「散髪しました。」
7月19日（日）　ラジオ体操02☆。「虫をとりました。」
7月20日（月）　海の日。ラジオ体操03☆。夏の小旅行、太宰府・福岡空港・博多へ。
「お勉強の神様に行きました。」
7月21日（火）　ホテルの駐車場でラジオ体操04☆。
帰りは集中豪雨の中。「雨がすごくふりました。」
7月22日（水）　ラジオ体操05★。「オオルリボシヤンマが取れました。」
7月23日（木）　祖母とラジオ体操06★。
「オオシオカラトンボがハラビロトンボを食べました。」
7月24日（金）　ラジオ体操07☆。「お母さんとお買い物にいきました。」
7月25日（土）　ラジオ体操08☆。「お母さんがトンボを取りました。」
7月26日（日）　小雨の中、ラジオ体操09☆。「ウスバキトンボが取れました。」
7月27日（月）　祖母と子ども会のラジオ体操へ10★。
「お母さんとドーナッツを食べました。」
7月28日（火）　Kと子ども会のラジオ体操へ11★。朝の5:50～7:10詳しい会話の記録。
「レストランにいきました。」
7月29日（水）　ラジオ体操12☆。ここ3日、S児「Kと寝る」。
「お外であそびました。」
7月30日（木）　ラジオ体操13★。「パフェを食べました。」
7月31日（金）　ラジオ体操14★。「本をかりました。３冊です。」
8月01日（土）　ラジオ体操15☆。「アゲハチョウが取れました」。
8月02日（日）　ラジオ体操16☆。鳥取旅行①。山口発、関金泊。
「車で倉吉に行きました。」
8月03日（月）　雨のためホテルのロビーでラジオ体操17☆。鳥取旅行②。伯耆町溝口泊。
「ペンション「だんだん」へ行きました。」
8月04日（火）　ペンションの前でラジオ体操18☆。鳥取旅行③。横田から備後落合へ。
「トロッコ電車「おろちごう」を見ました。」
8月05日（水）　ラジオ体操19★。「自分でウスバキトンボを取りました。」

8月06日（木）　ラジオ体操20★。壱岐旅行へ①。「大きな船にのりました。」
8月07日（金）　壱岐旅行②。壱岐でラジオ体操21☆。
去年と同じように虫取り。「クマゼミが取れました。」
8月08日（土）　壱岐旅行③。壱岐でラジオ体操22☆。「お祭りへ行きました。」
8月09日（日）　ラジオ体操23☆。「カズサちゃんに葉書を書きました。」
8月10日（月）　ラジオ体操24☆。「熱がありました。」
8月11日（火）　ラジオ体操25☆。「病気が治りました。」
8月12日（水）　ラジオ体操26☆。「靴を買いに行きました。」
8月13日（木）　ラジオ体操27☆。「おじら体操」始まり。「また、熱がでました。」
8月14日（金）　元気がないので、座ったままのラジオ体操28☆。「病院へ行きました。」
8月15日（土）　Ｓ児が体調を崩してラジオ体操ができず。Ｋ一人のラジオ体操。
「寝ていました。」
8月16日（日）　Ｓ児、ラジオ体操せず。「気分がわるくなりました。」
8月17日（月）　ラジオ体操29☆。隣の３幼児と遊ぶ。「友だちとあそびました。」
8月18日（火）　Ｋ出張、祖母とラジオ体操30☆。「赤ペン先生に出しました。」
8月19日（水）　ラジオ体操31☆。「ぼくはウスバキトンボを２匹とりました。」
8月20日（木）　ラジオ体操32☆。「ハグロトンボを取りました。」
8月21日（金）　祖母に「ラジオ体操、しない」という。「リョウマくんちに行きました。」
8月22日（土）　祖母とラジオ体操33☆。「リサイクルに行きました。」
8月23日（日）　ラジオ体操34☆。「オナガサナエが取れました。」
8月24日（月）　子ども会のラジオ体操35★。「下で寝ました。」
8月25日（火）　ラジオ体操36★。「ぶどうがりに行きました。」
8月26日（水）　ラジオ体操37★。「コオロギが鳴きました。」
8月27日（木）　ラジオ体操38★。「シュンくんと虫取りしました。」
8月28日（金）　ラジオ体操39★。４女児（幼・１名、小一・２名、小二・１名）とＳ児の
５名が最前列に並んで体操。「お祭りに行きました。」
8月29日（土）　ラジオ体操40☆。「また友だちとあそびました。」
8月30日（日）　２学期へ向けての登校練習をかねて、Ｙ小学校の玄関前でラジオ体操41☆。
「しかられました。」
8月31日（月）　夏休み、最終日。２回目の登校練習でＹ小へ。運動場では最後のラジオ体操
会42★。ご褒美に缶ジュースをもらうことに。帰り道には、替え歌を歌い
ながら。＊帰宅後、朝のうちに、Ｓ児とＫ、「アサガオの数の表」のまとめ。
「うなぎを食べました。」

2009年度の山口市立Ｙ小学校の夏休みは、7月18日から8月31日までの45日間であった。ラジオ体操についての内訳は、次のとおり。

子ども会主催のラジオ体操への参加、	１４回
家庭で自主的に行うラジオ体操、	２８回
病気等でラジオ体操をしなかった回数、	３回
計、	４５回

夏休みの45日のうち、42日（42回）の「ラジオ体操」への参加率は、じつに93.3％に相当する。S児の夏休みの生活の中にラジオ体操が溶け込んでいることが分かる。

４．夏休み第１日目のラジオ体操

2009年には7月18日（土曜）が夏休みの第1日目となった。S児といっしょの部屋に寝起きする祖母によれば、この日、S児はすでに5時30分すぎには、目をさましていた。その時点では「きょう、6時におきる」といっていたS児ではあったが、そのまま寝てしまった。

隣の部屋で寝ているK、6時の時報がなっても、起きてこないことに気付く。前日は1学期の終業式であった。そのうえに、夕方から開かれた出身幼稚園の終業式後の「ゆうべのつどい」にも参加してきたので、疲れた様子である。

6時06分、S児が目をさます。S児の声がして、すぐにKの部屋がノックされる。いつもの「おはよう、6時だよ」とはちがって、この朝の第一声は「ラジオたいそう！」であった。

K「そうか、ラジオたいそうだ。Sくんは、寝とけよ」といってみる。この言葉の裏には、「Kは起きてラジオ体操をするけど、S君は寝ていてもいいよ」という意味が隠されている。

S児から返ってきた言葉は「ぼくが、ラジオ体操、するよ」であった。

S児を前にして、二人で居間への階段をおりる。

6時10分、S児とK、洗面所で顔を洗う。K「こうやって洗ってね」と、両手で水をためて、顔にかけ、洗う様子を見せる。S児、すぐに真似る。

K、カレンダーを前にして、「カレンダーでいうと、どこ？」と、今日の日付や曜日をたずねてみる。S児、7月のカレンダーの「18日」を指す。

K「今日は、何日？」、S児「7月18日」。

K「何曜日？」、S児「土曜日」。

しばらくは、「〇〇する人？　手を上げて！」の言葉遊びをすることに。

S児「ラジオたいそうする人、手をあげてください！」

S児とK、大きな声で「はあい」といいながら、まっすぐ手をあげる。

S児「ラジオたいそう、しないで、寝る人？」

S児、手を下にさげて、手をあげない仕種をする。自分の体に押し付けている。K、S児の手をとって、「ラジオたいそう、しない人」の方に、無理に手をあげさせようとする。S児が、寝

ころがって、手をあげさせまいとする。

Ｓ児は「ううん」と我慢をして、右手を体にくっつけて、抵抗する。

しばらく取っ組み合いをすることに。しかし、Ｋの手がすべって、Ｓ児の手から離れてしまう。すると、Ｋの右手が勢いよく上にあがって、今度はＫが「ラジオ体操、しない人」の方に挙手した形になってしまう。最初は、Ｓ児に挙手をさせようとしていたのだが、この一瞬のうちに、Ｋが、「ラジオたいそう、しない人」のほうに挙手したことに逆転するのだ。

このあとは、二人で「あっ！」と声をあげて、たがいに顔を見合わせて驚き合い、そのあとは、「あっ」と声をあげることになり、二人で大笑いをすることになるのである。この言葉遊びの形式は、のちに何度も再現されることになる。

つぎには、Ｋが「（同じ１年生の）カズサちゃんのところ（壱岐の島）へ、行く人？」とたずねる。Ｓ児は、元気よく手をあげて、大きな声で「はあい！」と返事をする。つづけて、Ｋ「かずさちゃんのところへ、行かない人？」と問うと、右手を下げて、手を上げまいとする。

さらに、Ｋ「カズサちゃんのところへ行くとき、船に乗っていく人？」とたずねる。もちろん、この問いに対して、Ｓ児は大きな声で「はあい」と挙手する。このあと、「カズサちゃんのところへ行くとき、船に乗らないで、泳いで行く人？」などの質問がつづいていく。

6時20分になると、Ｓ児が「あっ、ラジオ」といって、玄関の靴箱の上においてある携帯用の小さなラジオをさがす。見つけて、スイッチを入れる。靴を履いて外に出る。

6時30分になって、「ラジオ体操の歌」がはじまると、いっしょに歌う。ただし、体操の方は、二人きりで家の前でする朝の体操は、ラジオ体操の第一だけである。こうして、夏休み初日のラジオ体操を終える。

しかし、前週の土曜、日曜の朝にも、「ラジオ体操」の練習をしているので、実質は3回目の夏休みのラジオ体操である。

終わると、祖母にカードに印鑑を押してもらう。Ｋはシャワーと身支度など。

Ｓ児、母親、祖母の3人は朝食。Ｋ、6時55分、自宅発、研究室へ。

５．夏休み第２日目のラジオ体操

夏休みの第2日目、7月19日（日曜）のラジオ体操をめぐる言葉は、次のとおりである。

① 6時00分、Ｓ児・母親・祖母の3人で「おはようございます」のあいさつ。

すぐに、足音がして、Ｋの寝間のドアが開く。Ｓ児が大きな声で、「おはよう。おはよう」と起こしてくれる。Ｋ「起こしてくれて、ありがとう」と抱く。

Ｓ児が「ラジオ体操！」と教えてくれる。

② K、S児に「Sくん、月曜、火曜、水曜のように、1週間を言ってごらん」。

S児、意味が理解できない様子。つづけて、K「月曜のつぎは、火曜、そのつぎは？」。S児「水曜、木曜、金曜、土曜、日曜」という。

K「もう1回ね、月、火、水って、言うてごらん」

S児「月、火、水」と言いはじめたので、Kは指を折っていく。K「ぜんぶで、いくつ？」S児、理解できない様子。

K、もう一度、指折り数えて、左手の5本指と、右手の2本をくっつける。S児「7（なな）」という。K「そうそう、月、火、水、木、金、土、日は、ぜんぶで7日。1週間は7日だよ。1週間は7日。言うてごらん」

S「1週間は7日！」という。

③ このあと、久しぶりに、掛け布団でS児を包む遊び、「巻きずし」をする。

このあとKが一足早く1階に降りようとすると、S児「あっ、これ、そろえて！」。S児から、掛け布団の端をそろえるように注意される。

④ 6時10分、居間へ。S児「これ、携帯ラジオ」といって、見せてくれる。

⑤ 祖母「アサガオ、何個、咲いとる？　見てきてごらん」

S児「ありゃあ、1個、咲いとる！」と声をあげる。ラジオ体操が始まるまでに、アサガオの記録表を作る。さっそくS児が記入する。

アサガオの鉢を持って帰った日、7月16日（木曜）には、3個の花が咲き、1学期終業式の日、17日（金曜）には6個。夏休み第1日目の18日（土曜）には1個が咲き、夏休み第2日目の19日（日曜）には1個が咲いた。

K「今日は、何個、咲きましたか？」

S児「1個」

K「7月17日には、何個咲きましたか？」

S児「6個」

K「全部で、何個咲きましたか？　1、2って、数えてごらん」

S児、指で押さえながら、数える。「11個」という。

6時25分、玄関前に出る。6時30分より、第4回目のラジオ体操をする。

S児とKが向かい合ってのラジオ体操である。

ラジオ体操4回目で、Kの体もすこし柔らかくなり、両足を開いて勢いよく両手を下げると、一瞬、手が土に着いた。

ラジオ体操のあと、K、シャワー。7時05分、朝倉発、7時16分、研究室着。

夏休み３日目、7 月 20 日（月曜）は「海の日」である。この日も、Ｓ児が「6 時になったよ」と起こしてくれて、二人で玄関前でのラジオ体操をした。

ラジオ体操のあと、Ｓ児・母親・祖父母の４人で福岡へ向けて出発する。車に乗るのが大好きなＳ児は、大喜び。福岡県のお茶の産地・星野村、太宰府（Ｓ児には「お勉強の神様」と説明）、福岡空港（滑走路の端で飛行機発着を見る）、ホテル宿泊、レストランなどの体験や見学。非日常の旅行は、Ｓ児の口から多種多様な、たくさんの言葉を引き出した。

６．夏休み４日目のラジオ体操は宿舎の駐車場で

7 月 21 日（火曜）、博多泊

6 時 30 分、博多のホテルの駐車場で、Ｓ児とＫがラジオ体操をする。携帯ラジオを持参する。8 時 00 分、博多発。帰途、豪雨のために小月以東の山陽自動車道は、不通。美祢市街の手前で、川の氾濫のため、国道は不通。う回路を 2 回通過して、12 時には、山口朝倉帰着。自宅近くの朝倉筋の車道の両側にある溝から、濁流があふれている。Ｓ児、1 行日記に「雨がすごくふりました」。

7 月 24 日（金曜）

6 時 00 分、Ｓ児「6 時だよ。ラジオたいそう！」といって、起こしてくれる。

Ｋの布団のうえで、「（壱岐の）かずさちゃんのところへ行くとき、船に乗らないで、泳いで行く人？」、「あっ！」を楽しむ。

小雨。ラジオ体操は居間で。

終了後、Ｓ児たちは朝食。Ｋはシャワー、身支度のあと、研究室へ。

Ｓ児は昼寝をしているので、力が余って、夜遅くまで、祖母を相手に大騒ぎ。

7 月 25 日（土曜）

Ｓ児、6 時 00 分、起床。Ｓ児「6 時だよ。起きて！」、そのあと「ラジオ体操！」。

Ｋから「こんど、かずさちゃんのことろへ行く人？」、「船に乗らないで、泳いで行く人？」、「ラジオ体操、する人？」、「しない人？」などの言葉遊び。

雨がふるので、ラジオ体操は居間で。

Ｓ児の計算カード。この日の誤答は「７－３＝５」だけ。正答は「４」。

17 時 54 分、この計算カードが終わるやいなや、Ｓ児「よし、テレビ、見る！」と、きっぱりとした言葉。

2009 年 7 月 26 日（日曜）

ラジオ体操。今朝5時30分、S児、まだ寝ている。6時02分になってもS児が寝ているので、母親がS児を起こした。

すると、S児は「すぎた！」といった。

S児・母親・祖母の３人で、布団のうえに正座して、両手をついて「おはようございます」と朝の挨拶をした。その直後、S児、Kの部屋にやってきて「6時だよ」と起こしてくれる。

テレビでは､集中豪雨による水害の様子が放映されている。K「家がくずれている」。S児「木がくずれてる。山がくずれている」という。

7月27日（月曜）

この日、どうしても朝早く研究室に行かないといけない。午前の二つの講義の、最終回の準備をしなくてはならないからである。以下の日程となった。

4時45分、起床。入浴、身支度。K自身のラジオ体操は、途中のコンビニの駐車場で。5時28分から32分までの4分間である。5時40分、研究室着。

6時10分、自宅に電話をしてみると、S児は自分で起きていて、「子供会のラジオ体操に行くと言っている」とのこと。

夕方、シャワーのあと、S児、Kの布団の中へ入る。

S児「おじいちゃんと、いっしょに寝る」。K「枕をもっておいで」。S児、自分の枕を持ってくる。つぎのような話が続く。

K「(壱岐の）カズサちゃんのおうちへ行くとき、船に乗らないで、泳いで行く人、手を挙げてください？」、さらに記述の「すべった！」も。

時計の話。K「長い針が、3のところは、何分ですか？」

S児、即座に「15分」という。

K「それでは、５のところは？」、S児「25分！」。

K「8のところは？」、S児「40分！」。

K「9のところは？」、S児「45分！」。

K「10のところは？」、S児「50分！」。

K「11のところは？」、S児「55分！」。

以上のような話がつづいた。しかしながら、寝るときには、いつもの母親と祖母の部屋へ行く。

７．ラジオ体操前後の会話

2009年7月28日（火曜）朝には、この夏休みの通算第11回目のラジオ体操をすることになった。この日は、Kといっしょに歩いて出かける地域子ども会主催のラジオ体操である。

5時50分にS児が起床してから7時10分にKが出勤するまでの1時間20分のあいだのS児の言葉を中心とした詳細な記録は次のとおりである。

① 5時50分、S児と祖母、トイレへ。そのあと、S児、Kの部屋に自分の枕を取りに来る。K、S児に対して「布団に入ったら？」と言葉をかける。S児、布団に入ってくる。二人で、話をしはじめる。

時計の長針が10を指している。K「Sくん、いま、5時、何分？」とたずねてみる。S児「5時50分」と教えてくれる。

K「こんど、長い針が11のところへ行ったら、何時何分？」

S児「5時55分」と答える。そのあと、「5・5・5が、ならぶ」と言った。

② S児「まちがい計算、やろう！」という。

そういえば、前日の夕方、寝るときに、二人でやった遊びである。

K「5＋3＝？」と問題を出す。S児が「8」と、正答を出す。

しかし、Kが、わざとふざけて「ちがうよ、100だよ。こら、S、100、言ええ！」と言いながら、S児をやっつける真似をする。

K「もう1回、言うぞ。5＋3は100、言ええ」と、体をゆする。

これに対して、S児は「5＋3＝8」と正答を言い張る。こんな会話が続く。

このあと、Kの問題と答えは、たとえば「6＋3＝63」になっていく。

S児は「6＋3＝9」と、正答を言いつづける。これが、S児のいう「まちがい計算」なのである。このような会話も、まちがいなく言葉を豊かにしながらも、けっこう楽しめるのである。

③ 6時の時報とともに、二人で起きる

S児とK、布団の上で正座をして、二人で向かい合い、「おはようございます」と両手をついて「朝のあいさつ」をする。

祖母も、時報とともに起きて、一足さきに階段をおりる。S児「おばあちゃん、お母さんも起きて！」という。S児とK、二人で、階下へ。

6時01分、S児「ラジオ体操、子ども会のラジオ体操、行く」という。

④ アサガオの花の数を調べる

6時10分、祖母がS児に対して「アサガオ、咲いているか、見てきてごらん」と話しかける。S児、すぐに玄関のドアを開けて、見に行く。

S児「ねえねえ、ピンクが、1個咲いたよ」と報告する。

祖母「書いてごらん」

S児、アサガオの花の数の記録表の7月28日の欄に、鉛筆で丸を書こうとする。K、机の上を片づけて、表を目の前に置く。「姿勢もね。大きな○だよ」と形だけ、書いてみせる。

S児、鉛筆で大きな○を書いて、ピンクの色を塗る。

K「Sくん、丸く書いてね」という。S児、丸い形に書きあげる。

⑤　玄関先のアサガオの鉢のそばで靴を履く

アサガオは、小さな花が、壁に隠れるように咲いている。よく見つけたものとも思う。

K「Sくん、よかったね、咲いていたから」。

S児、にっこり。

K、アサガオの花に向かって「アサガオさん、ありがとう」

K「Sくんも、ありがとう、言ったら？」

S児「アサガオさん、ありがとう」

アサガオを見ていたS児、Kに向かって「見て、タネができてるよ、緑の」と教えてくれる。

⑥　アサガオの水やり

K「水をやっとこうかね。Sくん、水を出して！」

Kがホースの先をもちあげると、ホースのあったところに、1匹の虫がいる。

K「なに？」とたずねると、すぐにS児が「ダンゴムシ！」といって、指先でつまんで手のひらにのせる。しばらく見ていたが、草むらに逃がす。

S児、道路の上に群れているスズメを追う。

そのあと、「おじいちゃん、行こう！」と、先を歩く。

ラジオ体操会場への広い道路を渡るとき、K「右よし、やってよ」と伝える。

S児「右よし、左よし、右よし」と言って渡る。

⑦　ここ1週間の豪雨のあとなので、澄んだ水が流れている。

K「きれいな水が、流れているよ」と言って、流れに手を入れてみる。

K「つめたい！」、S児も「つめたい！」という。

いつもとちがって、流れの音もしている。

K「水の音は、なんて言っている？」

S児「ジャー、ジャー、言っている」

K「これ、お米よ。白いのが、お米の花よ」。道路そばの田んぼの稲を見て。

S児、となりの田んぼの、同じように白い花のついた稲の穂を見て、「こっちも」という。

⑧　散歩中の大きな犬

S児は、犬が苦手の様子。かなり手前から道の端に寄っている。

K「犬さん、おはよう」といって、S児にうながすと、S児も「犬さん、おはよう」と真似をする。

⑨　ラジオ体操会場に着く

約500ｍの朝の道を歩いて、ラジオ体操の会場へつく。まだ人の姿が見えないので、Ｋ「トンボがおるかもしれんよ」といって、Ｓ児を田んぼの方へ誘う。

住宅の出窓にたくさんのアサガオが咲いている。紫や青の鮮やかな色である。

Ｓ児、出窓の前を通るとき、数が多いので「おお！」という声を上げる。二人で数えることに。「１、２、３、４、・・・16」。16輪まで、数えることに。

⑩　会場前の家にはブドウが植えられている。

葉っぱの形から、予想する。袋も掛けられている。Ｋ「ブドウかも、しれんよ」袋の外にも、青い実がなっていて、小さな房の形になっている。

それを見たＳ児「あっ、マスカットみたい」という。以前に食べた「マスカット」という名前を覚えていたのである。

⑪　ラジオ体操がはじまる

この日の参加者は、子どもも保護者も入れて30名くらいか。Ｓ児とＫ、二人が並んで、体操する。Ｓ児、ときどきＫの動きを見ては、まねをしている。

⑫　ラジオ体操第１、第２をすませる

最上級生の６年生が、体操カードに印判を押してくれる。Ｓ児、みんなと一緒に並ぶが、ほかの人の後ろに順番に並ぶという様子がない。

そこで、Ｋ「この人の後ろよ」といって、並ぶ場所を教える。後ろから５番目の位置にに並ぶ。印判を押してもらったあとは、うれしそうな表情でＫにカードを見せにくる。

⑬　Ｓ児「こっちから、帰ろう」

会場へ来るときは、いつもの通学路を通るが、帰りは散歩コースの田んぼのあぜ道側から帰ることになった。

自宅に近づいて、草むらの中にカラスウリの白い花が見える。

Ｋ「これ、カラスウリの花よ。カラスウリ、言ってごらん」

Ｓ児「カラスウリ」、Ｋ「そうそう、もう１回」、Ｓ児「カラスウリ」。

初めての言葉を教えたときには、このように繰り返して発音するようにしている。これをきっかけに、散歩や虫取りのときに、この白い花が見えるときには、Ｋ「何の花だったかね？」、Ｓ児「カラスウリ」という会話がなされる。

⑭　ラジオ体操から帰ってくる

Ｓ児、玄関から入ると、「ただいまあ」と声をかける。祖母「おかえりい」。

Ｓ児、祖母に「判、押してもらったよ」と伝える。

⑮　おじいちゃん（K）のお仕事

ラジオ体操から帰って、K、すぐにシャワーを浴びる。S児と母親、祖母の3人は、朝食。K、シャワーと身支度のあと、食卓の3人に話しかける。

K「おじいちゃん、お仕事に行ってくるからね」

S児「学芸大学？」

K「ほう、Sくん、おじいちゃんのお仕事、知っとるんか」

祖母がS児に向かって「おじいちゃんは、学芸大学へ行って、何するの？」とたずねる。S児の応答は「お話するの？　お仕事、がんばってね」であった。

⑯　出かけようとするKにたいして、

S児が「おじいちゃん、何歳？」と、唐突な質問をする。

K「63歳よ」と答えたあと、「Sくんは、何歳？」とたずねてみた。

S児「6歳！」、K「どっちが、多いい？」。

S児は「こっち！」といって、Kを指さした。

K、7時11分、自宅発。

10時40分、研究室発、自宅へ。S児、祖父母の3人でデパートへ行く予定。

S児と祖母、それまでに夏休みの勉強をしておくとのこと。この日で、夏休みの勉強（プリント類の宿題だけ）は終了する、と聞き及んだ。

考察■ラジオ体操をめぐる多様な言語活動

ラジオ体操であるから、中心は身体運動が中心となる。しかし、たった10分間の朝のラジオ体操であるが、多様な言語活動がふくまれていることが明らかとなる。出会う事物に名前があったり、見たり、教えたり、数えたり、におったり、さわったり、などなど…。ラジオ体操をきっかけにして、膨大な事物に出合いながら、S児は多種多様な言葉をつむぎだしている。

7月29日（水曜）

雨。居間でラジオ体操（12回目）

7月30日（木曜）

子ども会のラジオ体操（13回目）

6時の時報が鳴って、30秒もたたないうちに、S児がやってきて、「6時になったよ」と顔を近づけてくる。「ラジオ体操！　子ども会の」という。

この日は、天気が良いので、歩いてラジオ体操会場に行くつもりである。

K「さあ、起きようっと。さきに行こうっと」と歩き出すと、Kの前にきて、階段を下りる。まだ眠いらしく、横になることもある。6時04分、K「顔、洗おうっと」というと、S児、

さきに洗面所に行く。K「まけたあ！」

S児、蛇口をひねって水を出し、顔を洗う。両手を洗い、両手で水をすくって、顔を洗っている。K、S児の頭を下へ押しながら「もっと、かがんで」。

S児、顔を洗ったあと、「おじいちゃん、まけたよ」。居間にもどって、祖母のいる前で、もう一度「おじいちゃん、負けたからね」という。

S児が着替えを出してきて、準備をしている。K「こんどは、負けないぞ」。

K、そう言って、急いで着替えの準備をしはじめる。S児も、急いで、上下を着替える。そして、「ぼくが、勝った！　おじいちゃんが、負けた！」という。

考察■学校の水泳の準備体操とラジオ体操

幼稚園児や小学校低学年児たちが、勝ち負けに敏感であることが分かる。これまでのS児に対するKの働きかけにおいて、勝ち負けを問題にしたり、競争的雰囲気をつくりだす言葉かけにも心がけてきた。

6時12分、S児「よし、ラジオ体操、子ども会へ行こう」。

S児と祖父、歩いてラジオ体操会場へ。

30人ばかりの子どもたち、保護者は4人。

夜、Kが寝ていると、シャワーを浴びて、さっぱりとしたS児が、枕をもって「おじいちゃんと寝る」と言って、部屋に入ってくる。これで、4～5回目である。ラジオ体操という活動が、確実にS児とKの間を近づけている。

大きなトンボ

寝るときの話。K「S君、こんどね、おじいちゃんは、このぐらいのトンボ、とるからね」そう言いながら、K、両手の間を30cmばかりの大きさに広げる。

それを見たS児は「ぼくは、このぐらい！」と言って、大きく両手をひろげて、Kの2倍くらいの大きさのトンボをとるという。

K「くっそう、まけた！」と残念がる。すると、S児から「あっ、『くそう』言うたらいけません」と注意された。これも、競争的雰囲気であり、ゲーム的に言葉を生むチャンスである。Kの「くっそう」も、S児の「いけません」も、これまでに何度も繰り返されてきたが、S児は飽きることはない。

8.「まちがい計算をしよう！」

2009年7月31日（金曜）

前夜、Kの布団のそばに、S児用に小さな布団を敷いてもらう。S児がKの布団に入って、一晩ほど寝ることに。朝まで過ごしたのは、これが最初である。

午前6時、S児が「6時だよ、おきて。おきて、6時になったよ」と起こしてくれる。すぐに、二人で起きることに。この日は、子ども会のラジオ体操へ。この夏16回目のラジオ体操である。

7月28日の夜あたりから、S児とKで「まちがい計算」の遊びを始めた。主として「足し算」の答を、わざと間違うゲームである。これが、けっこう楽しい。この日の朝も、前日寝る時も、これを楽しんだ。

朝5時30分、となりに寝ていたS児が「えっ？」という声をあげて、急に眼をさまして起き上がった。周囲をきょろきょろと見回している。いつもと違う様子だからであろう。壁にかけてある時計を見る。

K「いま、何時？」、S児「5時30分」、K「6時になったら、おこしてね」。

S児「6時になったら、ピッピッピッ、ピーと鳴るよ」

K「6時になったら、起こしてね、Sくん。おじいちゃん、寝とくからね」

5時35分、K、S児に「Sくんは、寝るのが上手になったから、自分の布団を買ってもらったら？」、S児「うん」。S児、その気になった様子。

（＊6時を過ぎて階下に降りたとき、「Sくんが一人で寝るつもりよ。布団を買ってやったら？」、祖母「わたしが、作るから。大人よりも小さいのを」という。この会話を聞いたS児の顔が、ほころぶ。）

5時40分、S児「あっ、5時45分！」

K「Sくん、長い針が10になったら、何分？」、S児「5時50分」。

S児「もうちょっとしたら、50分？」、K「うん」。

5時53分、S児「もうちょっとしたら、55分？」、K「うん」。

しばらく寝る。S児「1、2、3、4、・・・」と数を数えはじめる。

40まで、数える。そのあと、S児「40センチ」という。

さらに、「6時に、すぎた」という。壁の時計は進んでいる。

ラジオの時報が鳴った。S児「あっ、6時！　ピッピッピッ、ポーと鳴ったよ。起きてくだあさい」と言って、Kに起きるように伝える。

そう言ったあと、S児「ちょっと待っとって」と言い残して、すばやく隣の部屋へ行く。母親と祖母の二人が寝ている部屋である。S児「6時になったから、起きて」。「はあい」という祖母の声。母親も、すぐに起きて階下の居間へ行く。S児とK、ラジオ体操の準備をする。

以下、論文「小1S児、夏休みの言葉 —— ラジオ体操をめぐる言葉（2）」に続く。